

定期作況報告

(平成22年6月20日現在)

北海道立上川農業試験場天北支場

I 気象概況

5月下旬から6月中旬までの気象は以下のように推移した。

5月下旬：平均最高気温が10.6℃（対平年比-3.9℃）、平均最低気温が3.6℃（-2.5℃）と平年より低かったため、平均気温は7.0℃（-3.3℃）と平年より低かった。降水量は17.5mm(54%)と平年より少なく、日照時間は70.9時間（134%）と平年よりやや高かった。畑地温は8.1℃（-0.9℃）と平年よりやや低かった。

6月上旬：平均最高気温、平均最低気温ともに平年並であったため、平均気温は11.9℃（+0.0℃）と平年並であった。降水量は1.5mm(6%)と平年より少なく、日照時間は70.9時間（134%）と平年よりやや長かった。畑地温は10.1℃（+0.2℃）と平年並であった。

6月中旬：平均最高気温が23.3℃（+6.0℃）、平均最低気温が12.8℃（+3.3℃）といずれも平年より高かったため、平均気温は17.9℃（+4.7℃）と平年より高かった。降水量は14.5mm(64%)と平年よりやや少なく、日照時間は92.6時間（210%）と平年より高かった。畑地温は14.8℃（+3.1℃）と平年より高かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の3旬の平均は12.1℃（+0.3℃）と平年並であった。降水量の3旬の合計は33.5mm(42%)と平年より少なかった。日照時間の3旬合計は222.8時間（154%）と平年より長かった。畑地温は10.9℃（+0.7℃）と平年よりやや高かった。

4月からの主気象要素の積算値(畑地温は5月から)は、平均気温、日照時間、畑地温は平年並に、降水量はやや少なく推移している。

a. 気象表

項目	5月下旬			6月上旬			6月中旬			3旬平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温 (℃)	7.0	10.3	△ 3.3	11.9	11.9	0.0	17.9	13.2	4.7	12.1	11.8	0.3
平均最高気温 (℃)	10.6	14.5	△ 3.9	16.0	16.1	△ 0.1	23.3	17.3	6.0	16.4	15.9	0.5
平均最低気温 (℃)	3.6	6.1	△ 2.5	7.6	7.9	△ 0.3	12.8	9.5	3.3	7.9	7.8	0.1
降水量 (mm)	17.5	32.7	△ 15.2	1.5	24.6	△ 23.1	14.5	22.8	△ 8.3	33.5	80.1	△ 46.6
降水日数 (日)	4	4	0	2	3	△ 1	2	4	△ 2	8	11	△ 3
日照時間 (hrs)	70.9	53.0	17.9	59.3	47.4	11.9	92.6	44.0	48.6	222.8	144.4	78.4
平均畑地温 (10cm, ℃)	8.1	9.0	△ 0.9	10.1	9.9	0.2	14.8	11.7	3.1	10.9	10.2	0.7
最多風向	ENE			SW			SW					
平均風速 (m/s)	3.6			3.0			2.2					

注1) 平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2) 平年値は前10か年の平均より上川農試天北支場作成。

3) 降水量、降水日数、日照時間の3旬平均欄は3旬の合計値。

4) △印は対平年値比減を示す。

b. 主気象要素積算値（4月21日～6月20日）

	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hrs)	畑地温 (℃)
本年	551	92	361	338
平年	586	146	310	315
比較	△ 35	△ 54	51	23

1) 畑地温は5月21日～6月20日の値。

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（1番草）

作況：不良

事由：5月下旬の低温、および生育期間全般における降水不足により生育は停滞したが、6月中旬の気温が高く、降水もあったため、出穂始はほぼ平年並となった。収穫時草丈は低く、乾物収量は平年の72%と低収であった。これは生育期間中の低温、干ばつにより栄養生長が阻害され、その後の降水と気温上昇により出穂が促進されたため、低収のまま刈取適期に達したことによると考えられる。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

出穂始（月・日）			収穫期（月・日）			収穫時草丈（cm）		
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6.18	6.17	1	6.21	6.23	△2	98	102	△4

注）平年値は前7か年のうち、平成19年（最凶年）及び平成20年（最豊年）を除いた5か年平均値。

生草収量（kg/10a）			乾物率（%）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
3,091	3,816	△725	17.6	19.8	△2.2	544	756	212	72 %

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（2番草）

作況：不良

事由：5月下旬の低温、および生育期間全般における降水不足により生育が停滞し、収穫時の草丈は平年より19cm低かった。乾物収量は平年の57%と著しく低収であった。これは生育期間の気象条件の影響のほか、冬損程度がやや高かったことも原因と考えられる。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

草 丈（cm）		
本年	平年	比較
38	57	△19

生草収量（kg/10a）			乾物率（%）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
1,208	1,915	△707	16.6	18.5	△1.9	201	351	△150	57 %

注）平年値は前7か年のうち、平成18年（最豊年）及び平成19年（最凶年）を除いた5か年平均値。